

「魅力ある学校経営の実践報告」

令和7年8月20日、関東甲信越ブロック研修会を開催しました。

昨今の18歳人口減少の影響により、多くの看護専門学校で学生定員割れの厳しい学校経営を強いられている現状を踏まえ、「魅力ある学校経営の実践報告」というテーマで研修会を企画しました。1都9県の学校から約120名がオンライン研修で参加しました。

研修では3名の講師による魅力ある学校経営の実践報告がありました。まず土浦協同病院附属看護専門学校の須加野幸恵先生からは、SWOT クロス分析を活用して学校の現状とあるべき姿を明らかにし、具体的な課題に取り組んでいる様子が紹介されました。学生確保対策として在校生を活かしたオープンキャンパスや学校PRの工夫、段階的学習支援による学生の学力アップや若い教員の教育力向上を目指した取り組みなど、学校の魅力発信に向けて全員で協力している姿が紹介されました。

次に厚木看護専門学校の五十嵐一美先生からは、21世紀の看護教育を創る地域医療を進めるというミッションのもと、実践しているカリキュラムマネジメントについて紹介がありました。2,730時間のゆとりあるカリキュラムで年間の時間割を確定し、セルフラーニング日の金曜日は自由登校として学生の自律性・主体性を育成するほか、オンデマンド学習やWeb試験の導入などの革新的な学校運営を紹介され、参加者から多くの質問が出されたいへん反響がありました。カリキュラム運営のほかにも教員の年休消化目標100%、毎日がノー残業デイなど教員の処遇改善やDXコンサルティング、プログラマー育成など未来を見据えた学校経営の取り組みについて発表されました。

最後に、富士吉田市立看護専門学校の渡邊貴子先生からは、山梨県内の昨年の出生率が過去最低となり将来看護職を目指す人材確保の重要性から、子どものための一日看護体験の取り組みについて紹介されました。県内4校の看護学校で開催し合計93名の参加者を得られました。それぞれの学校での看護体験の実際の様子を写真で紹介され、和やかな雰囲気子どもたちが楽しそうに体験している姿が印象的でした。この体験を通して看護学校を知ってもらい、将来の進路選択を考える機会となり、今後もこのような活動を通して人材確保につなげていきたいと紹介されました。

3名の講師の発表を聴いた後、グループワークでそれぞれ「自校の魅力ある学校づくりの取り組み」について情報共有をしました。研修アンケートからは、他校の取り組みを知ることによって視野が広がった、自校の魅力をあらためて気づくことができたなど、多くの前向きな感想が聞かれました。限られた時間のワークでしたが、他校との情報共有により自校の魅力を再認識し、新たな課題への取り組みへとつながる貴重な機会となったようです。

今後も協議会の横のつながりを大切に、魅力ある学校づくりを推進していけることを期待します。本研修にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

令和7年8月27日

日本看護学校協議会

関東甲信越ブロック神奈川県役員 望月紀子